

■ 広島城天守閣の利用案内 ■

◆観覧料

- 大人：370円 (280円)
- シニア・高校生：180円 (100円)
- 中学生以下：無料

※シニアは65歳以上の方
 ※高校生は高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部に在学する方及びこれ以外の方で15歳に達する日の翌日から18歳に達する日以後の最初の3月31日に至る日までである方
 ※（ ）内は30名以上の団体料金

◆開館時間

9:00～18:00 (12月～2月は17:00まで)
 ※入館受付は閉館時間の30分前までです。
 ※時期により開館時間を延長する場合があります。

◆休館日

年末 (12月29日～31日)
 ※このほか臨時に休館する場合があります。最新情報は広島城のホームページ (<http://www.rijo-castle.jp>) でご確認ください。

◆広島駅への交通案内

徒歩：約25分
 バス：合同庁舎前バス停 (城から徒歩約8分) から広島駅行きのバスで約6～7分
 市内電車：紙屋町東電停 (城から徒歩約15分) から広島駅行きの電車で約14分

館内案内	
第一層	常設展示
第二層	「城下町広島の発展とくらし」
第三層	常設展示
第四層	武具・刀剣・甲冑
第五層	企画展示
第六層	展望室

広島城

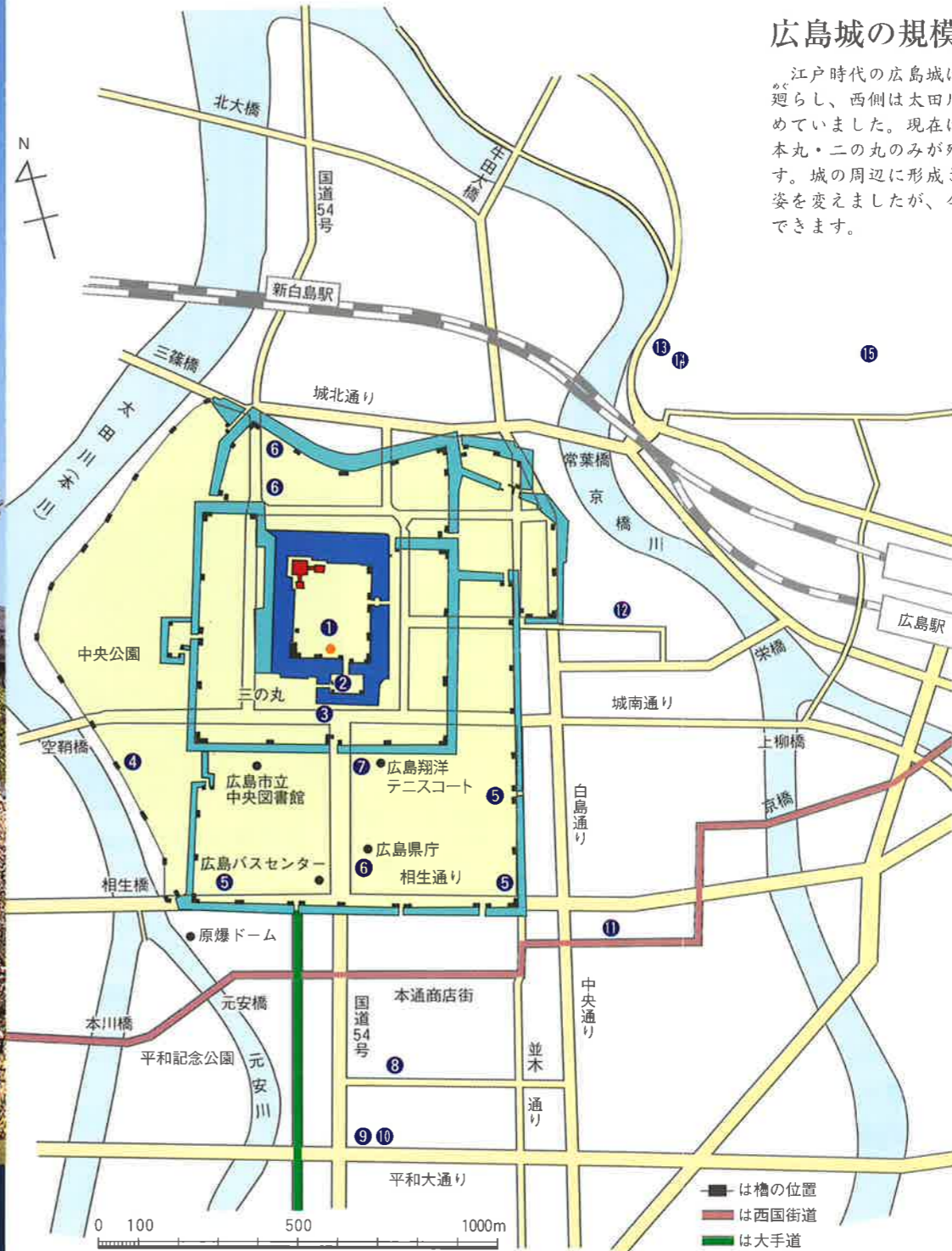


スタンプ・メモ欄

お願い *天守閣内にはお手洗いがありません。公園内のお手洗いをご利用ください。
 *天守閣内での飲食・喫煙及び指定場所以外での写真撮影はご遠慮下さい。

広島城の規模と城下の痕跡

江戸時代の広島城は、内堀・中堀・外堀の三重の堀を廻らし、西側は太田川を天然の堀とする広大な敷地を占めていました。現在は内堀(■の部分)とそれに囲まれた本丸・二の丸のみが残され、国の史跡に指定されています。城の周辺に形成された城下町は明治以降近代都市に姿を変えましたが、今でも各所でその面影を見ることができます。



①本丸

天守閣■のほか、藩主の居館として藩政の中樞機能を果たした本丸御殿などが築かれていました。

●は中国軍管区司令部の防空作戦室跡

②二の丸

③暗きよ跡説明プレート

④外郭櫓台跡

⑤外堀跡を示す石碑

⑥外堀発掘調査説明プレート

⑦中堀発掘調査説明プレート

⑧頼山陽居室跡

頼山陽が「日本外史」を執筆した居室が復元されています。国史跡。

⑨白神社

築城前この辺りが海だった頃、岩の上に白紙を立てて航行する船の目印にしていたところ、やがてその場所に小社が建てられ白神明神と名付けられたと伝えられています。後に毛利輝元が築城時に新しい社殿を建立しました。

⑩旧国泰寺愛宕池

かつてこの場所にあった国泰寺(現西区己斐)の境内にあったもので、海岸の岩をそのまま利用して造られています。

⑪胡子神社

福島時代の慶長8年(1603)、胡子像がこの地に移されたのが起源とされています。

⑫縮景園

元和6年(1620)に浅野家の別邸として築庭された回遊式庭園です。国名勝。

⑬饒津神社

天保5年(1834)藩主浅野斉肅が藩祖長政夫婦を祭神として建立しました。

⑭明星院

毛利輝元が母の位牌所とした寺で、広島城の鬼門(東北の方向)にあたり、城の鎮護の祈禱所とされました。

⑮東照宮

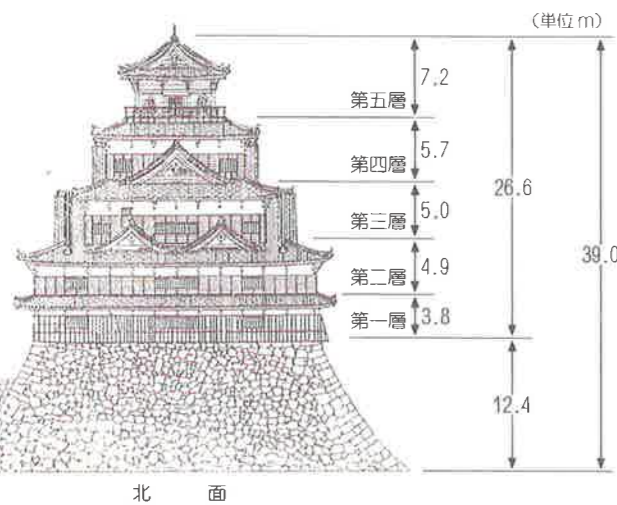
藩主浅野光晟が正保3年(1646)に徳川家康を祭神として建立しました。

■は櫓の位置
 ■は西国街道
 ■は大手道

〒730-0011 広島市中区基町21番1号
 TEL (082) 221-7512 / FAX (082) 221-7519
 URL <http://www.rijo-castle.jp>

天守閣データ

	旧 天 守 閣	復 元 天 守 閣
築造時期	早ければ文禄元年(1592)、遅くとも慶長4年(1599)には完成していたと見られるが、正確な年月日は不明。	昭和32年(1957)、広島復興大博覧会に際しての復元を決定。同年10月20日に着工。翌年3月26日に竣工した。
構 成	大天守の東と南に小天守を連ねる	大天守のみ復元
材 料	木造(主に松材を使用)	鉄筋コンクリート
そ の 他	☆旧天守閣は昭和6年(1931)1月19日国宝に指定。 ☆昭和26年(1951)、広島国体の協賛事業、体育文化博覧会の開催にあわせて木造で仮設の天守閣が建てられた(国体終了後に解体)。 ☆内堀と本丸及び二の丸が、昭和28年(1953)、広島城跡として国の史跡に指定。	



広島城の歴代城主



広島城の歩み

広島城は、太田川河口の三角洲に、毛利輝元が築いた典型的な平城です。

城地の選定と築城

毛利氏は、南北朝時代から郡山城(現広島県安芸高田市)を居城とする一領主でしたが、元就の代に中国地方の大半を支配する戦国大名に成長しました。後を継いだ孫の輝元は、豊臣秀吉の聚楽第・大坂城を見物し、城下町と一体化して政治・経済の中心地として機能する城郭の必要性を痛感しました。こうして瀬戸内海に面する太田川河口の三角洲に城地を定め、天正十七年(一五八九)四月十五日鎮入式を行いました。

築城工事は穂田元清(元就の子)・二宮就辰(輝元側近)を善請奉行として急ピッチで進められ、天正十八年末には堀と城壁が一応完成し、翌年、輝元は入城を果たしました。

城下の整備

慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の合戦後、輝元に代わって安芸備後二ヶ国(現在の広島県)の領主として福島正則が入城し、外堀や外郭の整備を進め広島城を完成させました。また、広島城下を通るように西国街道(山陽道)を南下させたほか、出雲・石見街道を整備し、その沿道を中心に町人町の大幅な拡充を図りました。

明治以降の広島城

廢藩置縣以後、城内には旧陸軍の施設が徐々に設けられ、建造物は次第になくなりました。特に明治七年には、本丸・三の丸で出火し、本丸御殿等も焼失し、大天守・中・裏御門、二の丸等を残すのみとなりました。そして昭和二十年(一九四五)八月六日、原子爆弾により天守閣をはじめ城内の建造物は全て壊滅しました。現在の天守閣は、同三十三年(一九五八)に外観を復元して建造されたもので、内部は武家文化を中心に紹介する歴史博物館になっています。



「広島」という地名の由来

築城前の太田川河口の三角洲は、五ヶ村などと呼ばれていました。「広島」という地名の由来については、
 ①自然の地形を表現する「広い島」という意味。
 ②毛利氏の祖・大江広元の「広」と、城地選定の案内役をつとめた福島元長の「島」を合わせて、「広島」と命名した。
 ③築城以前から現地の人々が用いていた地名。など諸説あり、はっきりしたことはわかっていません。

「鯉城」の由来

広島城は別名を「鯉城」ともいわれています。一説には、この付近一帯が己斐浦にあたり、己斐の音が鯉に通じることから呼ばれるようになったものといわれています。広島東洋カープは、この鯉 (carp) に因んで名付けられたものです。



ひろしまじょうか えびょうぶ 広島城下絵屏風(部分) 広島市指定重要有形文化財

この屏風は文化年間(1804~18)頃の城下町広島の様子をうかがい知ることのできる数少ない絵画資料です。作者や伝来は明らかではありませんが、町の東西を貫く西国街道筋の町並みの様子が東から春夏秋冬にわけて描写され、当時の人々の生活の様子が生き生きと表現されています。



復元された二の丸

上：御門橋・表御門
 左：左から平櫓・多聞櫓・太鼓櫓

広島城の二の丸は出撃の拠点である馬出しの機能を持ち、本丸の正面を守る役割を果たしていました。写真の表御門・御門橋・平櫓・多聞櫓・太鼓櫓は平成6年までに復元されたものです。